

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	20人	国語B	20人
② 算数A	20人	算数B	20人
③ 理科	20人		

5 留意事項

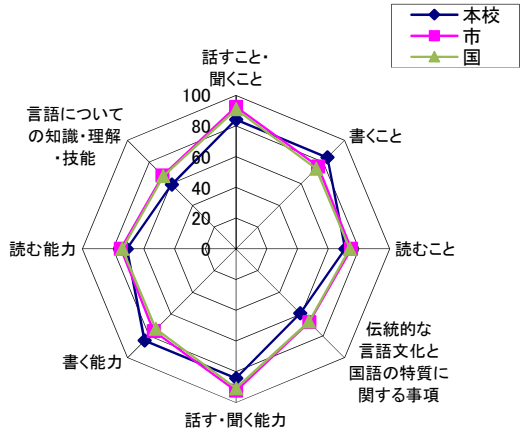
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

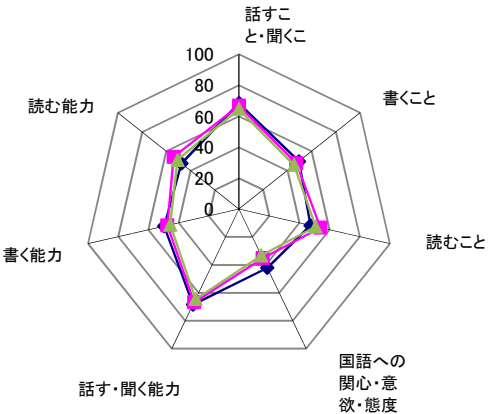
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	84.2	92.4	90.8
	書くこと	84.2	75.7	73.8
	読むこと	71.1	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.2	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	84.2	92.4	90.8
	書く能力	84.2	75.7	73.8
	読む能力	71.1	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	59.2	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	68.4	66.8	64.6
	書くこと	49.5	47.4	45.6
	読むこと	47.4	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	42.1	35.2	33.2
	話す・聞く能力	68.4	66.8	64.6
	書く能力	49.5	47.4	45.6
	読む能力	47.4	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、国語Aでは全国平均を下回っている。国語Bについては、全国平均とほぼ同じである。 ○国語A問題の自分の伝えたいことを筋道を立てて話す設問では、正答率が8割以上となっている。相手や目的に応じて、伝えることを選択することができたと捉えられる。 ●話し合いの中で、発言の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる設問では、正答率が5割に達していない。考えの共通点や相違点を整理しながら互いの話を聞くことに課題があるといえる。	・国語科の学習だけでなく、他の教科や活動における話し合いの中で、掲示資料等を用いて話し合いのモデルを提示し、互いの考えや相違点を確認しながら話し合いができるように指導する。その際、それぞれの考えの根拠に着目できるようにする。
書くこと	領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○文章の構成を捉えて考える設問では、どちらも全国平均を上回っており、文章全体や物語の構成をきちんと捉えられていると考えられる。 ●国語科B問題の意見を比べてまとめることや内容の中心を明確にして書く設問では、正答率が約3割～5割になっている。話をまとめたり意見を書いたりするのが、約半数の児童は課題となっていると捉えられる。	・国語科の学習や読書活動の中で、自分の考えをまとめて書くことを指導する。また、国語科の学習だけでなく、他教科においても、文章を要約したり自分の意見を書いたりする活動を積極的に取り入れるようにする。
読むこと	領域の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ○目的に応じて必要な情報を捉える設問では、全国平均を上回っていて、無解答者もない。文章から必要な情報を得ることができる児童が約8割程度いる。 ●文章から登場人物の心情について、情景描写を基に考える設問では、6割以下の正答率となっている。比喩表現で表されている人物の心情を読み取ることが課題と捉えられる。	・物語を読む際に、全体の文章の中で登場人物の心情の変化を情景などの描写との関係を考えながら読むように指導をする。また、自分の考えだけでなく、友達のことをよく聞くように促すことで、新たな気づきにつなげたり、考えをより深めたりできるようにする。

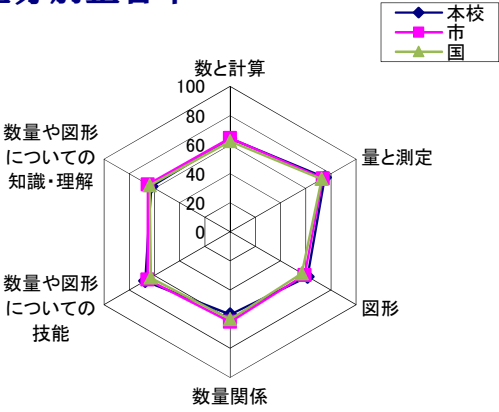
伝統的な言語文化 と国語の特質 に関する事項	領域の正答率は、平均を下回っている。 ●漢字の読み書きについては、すべての設問で全国平均を下回っている。第5・6学年の配当漢字を正しく書くことと文字の意味を理解することに課題があるといえる。 ●主語と述語の関係の設問は、正答率が約3割となっている。主語と述語の関係や文の繋がりなどを意識して読むことが課題といえる。	・既習漢字の定着を図るために、朝の学習や家庭学習等で学習した漢字の復習を繰り返し行う。または、小テストなどを行って習熟を図る。 ・文と文の繋がりや主語と述語の関係を意識して文章を読むように指導する。
---------------------------------------	--	---

宇都宮市立城山東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

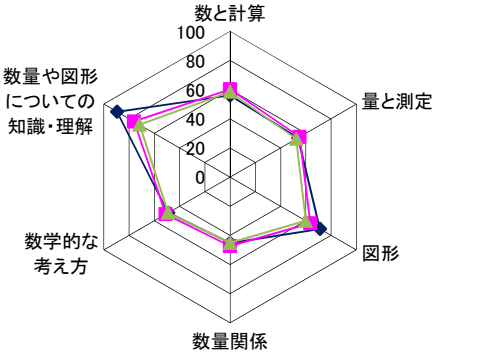
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	64.2	64.5	62.3
	量と測定	75.0	73.6	72.7
	図形	61.4	59.1	56.9
	数量関係	56.8	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	67.4	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	62.6	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	56.1	60.2	58.4
	量と測定	53.9	55.0	52.4
	図形	71.1	63.5	59.9
	数量関係	45.3	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	49.1	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	89.5	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は全国平均とほぼ同じである。 ○1に当たる大きさを求める問題場面において、数直線上の数量関係を理解している児童が約9割いる。 ●A問題において、1に当たる大きさを求める問題で除数が小数の場合でも除法を用いることを理解している児童は約5割であった。また、$12 \div 0.8$の式になる文章問題を選ぶ問題も正答率が約3割であった。 ○B問題において、示された情報を解釈して問題を解くことができていない児童が約8割いる。 ●B問題において示された考え方を解釈し、それをさらに表に整理して条件に合う時間を判断する問題の正答率が36%となっている。	○数直線上の数量関係を理解している児童が9割いるので、これからも割合などの学習において、数直線を用いるのは有効であると言える。 ●数直線上の数量関係を理解している児童が9割にもかかわらず、除数が小数になると除法の意味が理解できていない児童が多くなる。除数が小数であっても1に当たる数を求めるのが除法であるということをこれから様々な問題場面で繰り返し指導していく。 ●示された情報を解釈する力がついていないと思われる。しかしそれを使って正しい解答までたどり着けない児童が多い。さらに文章を読み解き、情報を正しく整理する力がつくように、文章題に取り組ませていく。
量と測定	領域の平均正答率は全国平均とほぼ同じである。 ○●算数Aにおいて角度の問題で180度より大きい角の大きさの正答率は、県の平均よりは高いものの、7割に達していない。 ●1直線が180度であるという問題の正答率が90%をやや下回った。 ○B問題において一つの点のまわりに集まった角度が360度であることを説明する問題で、県平均をやや上回った。	●角度については180度より大きい角度について理解している児童が7割に届いていないことや、1直線が180度という基本的なことを理解していない児童も1割いることから、もう一度、基本的な事項の確認をする。 ●1つの点のまわりに集まった角度が360度であることを示された条件を使って証明する問題は県より5ポイント上回ったものの、約5割の正答率であることから、角度の基本的な事項を押さえ、繰り返し指導していく必要がある。
図形	領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○空間の中にある位置を正しく書くことができており、正答率は8割を越えている。 ○円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍か理解している児童が7割と県平均を上回っている。 ●円周率を求める式の正答率は約3割で公式の意味の理解に課題が見られる。	●直径から円周を求める式についてはよく理解している。しかし、円周率の求め方については3割の正答率であった。もう一度、円周と直径から円周率を求める方法をパソコンなどで示し、復習し、理解させる。 ●領域全体の正答率はB問題では7割と高いので、様々なタイプの問題に取り組ませ、さらに理解を深めていく。

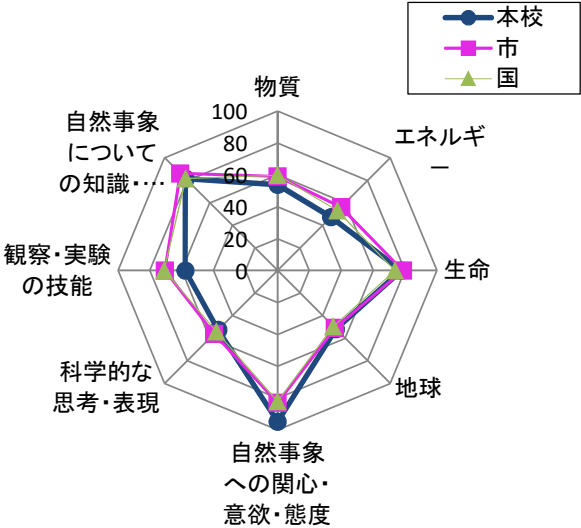
数量関係	領域の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ○円の直径と円周の関係について理解している児童が7割近くいて県平均より10%以上上回っている。 ○除法で表すことができる二つの数量関係について理解している児童が7割近くいる。 ●百分率を求める問題では正答率が5割に満たない。 ●B問題では、示された条件を解釈することはできているが、数値を変えるなど活用が求められると、正答率が下がり、県平均を下回る。	・円の直径と円周の関係についてはよく理解しているの で、さらに解答する際、直径と半径で混同しないように、問 題を解きながら理解させていく。 ・百分率、割合については正答率が低いことから、同様の 基本的な問題から復習し、何を1と見るかという点からもう 一度丁寧に理解させていく。 ・B問題にある、条件がたくさん示される問題については、 算数的な課題のほかに文章読み取りの課題も残る。文の 長い文章題についても時々触れ、条件の読み取りに慣れ させる。
------	--	--

宇都宮市立城山東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	53.9	59.0	59.8
	エネルギー	47.4	56.4	53.1
	生命	77.6	78.6	73.6
	地球	51.8	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	94.7	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	52.6	56.1	54.1
	観察・実験の技能	57.9	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	81.6	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	領域の平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○海水と水道水を区別するための実験方法を理解し、結果を分析して考察する問題では正答率が全国平均を上回った。 ●濾過の正しい方法や食塩水から食塩を取り出す方法については技能・知識の両面で正答率が全国平均を下回った。	・主に実験の方法について復習する必要がある。濾過については折ったろ紙が漏斗からはみ出さないようにセットすることとろ過したい液体はろ紙の高さを超えないように注ぐことなどの基本的な操作を再度確認し、今後の実験において正確に濾過することができるようにする。
エネルギー	領域の平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○光電池が太陽と正面から向き合う位置にあると効率よく発電することを理解し、それらの知識を使って結果を考察する問題では正答率が全国平均を上回った。 ●電気の流れが電池の向きで入れ替わることや抵抗の前後で電流の大きさが変わらないこと、などについて答える問題では正答率が全国平均を下回った。	・電流の向きはモーターの回転する向きと関係付けて考えるようにする。具体的には乾電池の向きを変えるとモーターの回転も逆になることから回路を流れる電流の向きが逆になったことを捉えられるようにする。また、基礎知識として電流はプラス極から出てマイナス極に戻っていくことも確認し、電気の流れを意識した思考ができるように復習する。
生命	領域の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ○野鳥の適切な観察の方法について選択する問題では正答率が全国平均を上回った。 ○骨と関節と筋肉の関係について模型などで説明したり関節という名称を答えたりする問題では正答率が全国平均を上回った。 ●鳥の翼と人間の腕のつくりについてのまとめからどのような視点を基にまとめたかを考える問題では全国平均を下回った。	・人間の骨格と鳥の骨格の違いを模型などで確認し、関節の作りと曲がる方向や関節の数と関節の場所など様々な視点から似ているところや違うところに視点を当てて、それぞれの仕組みについての理解を深める。そうすることで鳥と人間の営みの違いが骨格の違いにも大きく関わっているということに気付くことができるようにする。
地球	領域の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ●流れる水の働きについては、水が起こす堆積作用の言葉について理解が十分ではなく正答率は全国平均を下回った。 ○浸食、運搬を確かめる実験では川に見立てた実験用の河川の変化の様子を的確にとらえて二次的な体験から実際の河川を想像する問題では全国平均を上回った。	・流れる水の働きには浸食・運搬・堆積の3つの作用があることを復習したうえで、堆積作用は蛇行した川の流れが緩やかになる河川の内側や河口付近の流れが緩やかな場所で見られ小さい粒ほど上層に積み重なることについて、映像資料や再実験を通して確認し「堆積作用」についての正しい知識が身に付けられるようにする。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や希望を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、100%の児童が肯定的回答をしている。家庭や周囲の友達、地域の方に支えられて、児童の自己肯定感・自己有用感が育ってきており、自分も周囲の人のために役に立ちたいという気持ちが芽生えてきていると思われる。さらに、自信をもってよいところを伸ばしていけるよう、指導、支援を続けていきたい。

○●「週末に何をして過ごすことが多いですか」の質問(複数回答)では、「勉強や読書」と回答した児童が約9割と多く、休日にも家庭学習や読書をしていることが分かる。その一方で、「テレビやビデオ・DVDを見たり、インターネットをしたりしている」という回答も100%である。家庭と連携を図りながら、インターネット等の秩序ある使い方ができるよう指導したい。

○平日の家庭学習の時間については、「1時間以上、2時間より少ない」が約半数で最も多く、それ以上学習している児童も見られる。約8割の児童が、城山地区学校園で高学年の目安として示している1時間以上の学習をしており、家庭学習の習慣が身に付いてきているといえる。

○「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問では、100%の児童が肯定的回答をしている。話し方・聞き方を段階的に身に付け、本を介しての学び合い学習などを積極的に行ってきた成果だと思われる。今後も継続して行っていきたい。

○算数と理科について、「好きですか」という質問の肯定的回答は、どちらも全国平均を上回っている。また、「算数(理科)の勉強は大切だと思いますか」「算数(理科)で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問には、100%の児童が肯定的回答をしている。今後も、学習したことを普段の生活の中で活用できる力を身に付けさせていきたい。

宇都宮市立城山東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読書活動の推進	- 各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用 - 家読の推奨 - 読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施 「おすすめの本紹介コーナー」による児童間の感想の交流 - 学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施	- 平日読書をする時間は、「30分以上1時間より少ない」と「10分以上30分より少ない」がどちらも約4割である。「全くしない」と回答した児童はいないことから、日頃から本に親しんでいることが分かる。 - 国語の「読むこと」の平均正答率は、全国平均とほぼ同じであるが、物語文において、情景描写や比喩表現から登場人物の心情を読み取ることに課題が見られた。
「読むこと」「書くこと」における基礎的・応用的技能を高める学習の充実	- 朝の学習における「ミニ作文」や語彙力を付けるための学習の実施 - 低学年の促音、長音、拗音などの指導段階における個に応じた教材の活用 - 授業の振り返りの確実な実施と、次時での活用	- 国語の「書くこと」の平均正答率は、全国平均を上回っている。「読むこと」の平均正答率は、全国平均とほぼ同じであるが、物語文において、情景描写や比喩表現から登場人物の心情を読み取ることに課題が見られた。 - 国語の記述式問題の平均正答率は、全国平均を上回っている。
復習により定着を図る学習の充実	前学年までの「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施	国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について見ると、漢字の読み書きは全国平均を下回っている。また、主語と述語の関係の設問では、正答率が約3割となっており、既習事項の定着は引き続き課題であるといえる。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」の活用(児童・保護者) - 地域学校園共通の合言葉「宿題プラス1」の周知・徹底 - 年2回の「家庭学習がんばり週間」の実施と自主学習の実践の紹介	平日の家庭学習の時間については、「1時間以上、2時間より少ない」が約半数で最も多く、それ以上学習している児童も見られる。約8割の児童が、城山地区学校園で高学年の目安として示している1時間以上の学習をしており、家庭学習の習慣が身に付いてきているといえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の「数量関係」で、百分率、割合についての正答率が低く、課題である。	・「割合」の素地となる学習の系統的な指導	・各学年において、基準量、比較量、割合の関係の理解を深める素地となる授業の系統性を意識して指導する。 (1年「ながさくらべ」、2年「かけ算」、3年「わり算」など)